

【様式(2)】 注及び引用文献, 謝辞等の表記について(投稿要領6関係)

1. 注および引用文献の表記

- 1) 本文中に「注」を必要とする場合は, 本文中の該当箇所に, 上付き文字(1)(2)…と表記し, 論文原稿末尾に注の欄を設けてまとめて記載する。
- 2) 引用文献は, 本文中では「著者名(発行年)」, あるいは「(著者名, 発行年)」として表示する。同一著者の同一年の文献については発行年の後に a, b, c……を付ける。
例 1: しかし, 市川(1990)も強調しているように……という調査結果もある(桑原 1990a, 1990b)。
例 2: OECD の調査によれば「……である」(OECD, 1981:pp.45-46)。
- 3) 引用文献は, 注の後に邦文, 欧文をまとめてアルファベット順(邦文のみの場合は五十音順も可)に記載する。その際、表記する形式を以下の2に統一すること。
- 4) 謝辞または付記として, 引用文献欄の後に, 本文全体の制限字数の範囲内で表記することができる。

2. 本文中に引用文献を明示した場合の表記

- 1) 研究論文等の場合 → 著者(発行年), 論文名, 雑誌名, 巻, 号, 所収頁。
例 1: 松井香奈・藤本勇二(2024), 「自分の成長を願う児童の育ちを支える教師の働きかけ, 一伝え合い交流する活動を通して気づきの質を深める」, 個性化教育研究, 第 15 号, pp.59-70
例 2: Murnane, R. J and Cohn, D. K (1986), Merit pay and the evaluation problem: why most merit pay plans fail a few survive, *Harvard educational Review*, vol. 56, 1, pp.1-7
- 2) 単行本の場合 → 著者(年号), 書名, 発行所。
例 1: 佐伯胖(1975), 『「学び」の構造』, 東洋館出版社。
例 2: Holmberg, B. (1989), *Theory and Practice of Distance Education*, Routledge.
- 3) 単行本等に所収された単独の章・論文の場合 → 章の著者, 章タイトル, 編者, 書名, 発行所, 発行年, 所収頁。
例 1: 日比裕(1999), 「授業分析の課題と成果」, 日比裕・的場正美編, 『授業分析の方法と課題』, 黎明書房, pp.10-21
例 2: Hargreaves, A. and Goodson, I. (1996), Teachers' Professional Lives: Aspirations and Actualities.
In Goodson, I. F. & Hargreaves, A. (Eds), *Teachers' Professional Lives*, Falmer Press, London, pp.1-27